

キャプション凡例

- ① 写真のタイトル
- ② 撮影年代/撮影場所
- ③ 資料提供者(敬称略)
- ④ 解説文
- ⑤ 証言映像タイトル

1 義肢に血が通うまで



- ① 療友とともに
- ② 昭和17年5月頃
臨時東京第一陸軍病院
- ③ 香川県 野角 敏幸

④ 本病棟では下肢切断者が厳しい歩行訓練に耐えた。訓練後のひととき。野角さんは中列右側から2番目。



- ① 能動義手をつけて
- ② 昭和39年頃 職場
- ③ 長野県 大日方 邦治
- ④ 東京パラリンピック出場が決まって、新聞記者から贈呈された1枚。電気工事の資格を取るために、物がつかめるようになる「能動義手」は欠かせないものだった。
- ⑤ 「働くために義手を」

2 家族に支えられて



- ① 園児たちとともに
- ② 昭和27年頃 沖縄厚生園
- ③ 沖縄県 又吉 キク

④ 「戦争で家族を失った子供たちの寂しさを理解できるのは、片手を失った私のほかに誰もいない」と思っていた。

⑤ 「母に支えられて…」



- ① 療養中に
- ② 昭和21年 湯河原の転地療養所
- ③ 東京都 伊東 朝雄
- ④ 両手切断後、生きる気力を失い何度も自殺を考えた。それを思い止めさせてくれた付き添いの妹とともに。
- ⑤ 「生きる…それは死ぬよりつらかった」

3 傷を受けて

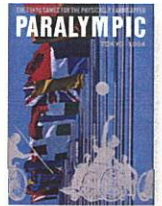


- ① 入営を前に
- ② 昭和14年11月28日
自宅の庭
- ③ 長野県 唐澤 勝治

④ 家族との記念写真。唐澤さんは、「今でも戦争の夢を見る。道が分からなくなって、引き返すことができなくなる」という。

⑤ 「奇跡の生還、そして苦難の日々」

4 写真集と図録



5 情報検索コーナー



ここでは、展示しきれなかった、数多くの「戦傷病者の写真」を「実物資料」の中から自由に閲覧できます。

あわせて、「証言映像」と「戦傷病者の記録」もご覧ください。